

温古知新②9 菜根譚 1～1

笑顔礼讃西東

久珠の会 (東京都・武蔵野市) 2～3

ハツ句同好会 (新潟市・中央区) 3～4

齋藤徳重 (千葉県・印旛郡) 5

投稿作品 6～10

心に残った作品 10～11

新潟ぶらり／月岡温泉 11

詠み人スクランブル(夏といえば山?海?) 12～13

お客様の「リレーエッセイ」 山川元旦 14

二ユースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人里見佳保 16

8

August  
Vol.75

\*  
「喜怒哀楽」は、  
文芸を楽しむ方々の  
活力の源を目指し  
(株)ミューズ・コーポレーション  
喜怒哀楽書房が  
隔月発行している  
情報誌です。

# 喜怒哀楽

詠み人応援マガジン  
詩歌俳柳壇ニュース

# 楽



今回の「温古知新」からは、中国の古典「菜根譚」をご紹介します！まずは、「菜根譚」についてから。

「菜根譚」は、中国の古典のひとつ。前集二二二条、後集一三五条からなり、主として前集は人の交わりを、後集では自然と閑居の楽しみを説いています。明時代末の人、洪自誠(洪応明、還初道人)著。明治時代以降の日本では中国の古典の「論語」と並んで広く読まれてきました。「菜根譚」という書名は、朱熹の撰した「小学」の善行第六の末尾、「汪信民、嘗て人は常に菜根を咬み得ば、則ち百事做すべし、と云う。胡康侯はこれを聞き、節を撃ちて嘆賞せり」(菜根は堅くて筋が多い。これをかみしめてこそものの真の味わいがわかる)という汪信民の語に基づくと考えられます。

それでは、前集の一項から見えていきましょう。

道徳に棲守する者は、寂寞たること一時。権勢に依阿する者は、凄凉たること万古。達人は物外の物を観、身後の身を思う。むしろ一時の寂寞を受くるも、万古の凄凉を取ることなかれ。

(道徳を守る者は、寂しい気分となってもそれはその場限りのことで、偉い人にへつらう者は、ずっと寂しいもの。だから、正しい生き方をしている人は、真実を見抜く目で物事を観、未来の価値を考え、一時の寂しさや悲しさに流されず、一生を深く考えて淡々と生きるべき。)

道徳を守って誠実に生き、終始一貫した哲学・思想を持つて生きること、本当の安心を得ることが出来る、ということでしょうか。

続いて二項です。

世を涉ること浅ければ、点染もまた浅く、事を歴ること深ければ、機械もまた深し。故に君子はその練達ならんよりは、朴魯なるにしかず。その曲謹ならんよりは、疎狂なるにしかず。

(人生経験が浅ければ染まり方も浅いが、経験豊富になれば小細工も上手くなり染まり方も深くなる。だから、上に立つ者は、万事に如才ないよりはいくらか間が抜けているほうが、また、度が過ぎるくらい丁寧なより、一本気でぶしつけの方が人間として信用できる。)

その場限りの考えや小手先で世渡り上手に生きるより、一心に他を思つて生きる方が良いですね。

と、今回はここまで。次回、三項から見えていきます。(古川久美子)



# 久珠の会ニツ橋句会

## 主宰 水原亜矢子様

(東京都・武蔵野市)

7月14日(月)夜7時、「学士会館」

で開催された「久珠の会ニツ橋句会」にお邪魔しました。話題になったドラマ「半沢直樹」のロケ地として使用された建物は、外装内装とも重厚な造り。主宰の水原さんは、中学生の時から伯父の水原秋桜子に俳句の手ほどきを受けていたという方。会の名前の由来である娘さん以外の女性は本日欠席ということで、全員仕事帰りという現役の男性揃い。さて、どんな句会になるのでしょうか。



▲軽妙で楽しい語り口の中に俳句の大切なポイントを盛り込む水原主宰

本日の自由題「髪洗う」「冷奴」「金魚」ほか5句提出の5句選。仕事で遅れてきた方には「駆けつけ3杯」ならぬ「駆けつけ5句！」の声がかかり、「最後まで作者を明かさなide言いたいことをいましょう」という会員の言葉

冷奴小言を添へる女箸

鹿彦

会員：奥さんが、また苦情を言っている情景が浮かんでいいと思つた(笑)。

主宰：全員の点が入つた6点句。冷奴を食べながら小言ばかり言っているという事でしょうか。女箸は女の人の使う箸？この場合、上5と中7ができているから女箸でいいが、他で使えるかというところではない。今、冷奴のおいしい時季でありアリティがある。

夜の更けて明日別るか髪洗ふ 敏朗

主宰：明日こそ別れようと決心し、そのためにさっぱりしよう、と。でも、結局失敗して別れられないのではありません。抜き差しならぬというか、縁が深い。時間の経過が出ていておもしろい。これは敏朗さんのように、経験豊かな人じゃないと詠めない句。  
会員：マンション住まいだと、夜遅くに風呂に入ると苦情がくる。これは一軒家の人の句だな(笑)。

髪洗ふ情事の火照り残しつつ 和男

会員：どんな顔でこんな句を出すのだろうか。  
主宰：顔で情事をするわけではないですからね。私の句ではありませんよ(笑)。



▲「久珠」創刊号 巻頭には作家荻野アンナのエッセイや人間国宝の方のインタビュー等 豪華な紙面

会員：情事というのは、一般的に夫婦間のことではないですよ。それを言つたらおもしろくないでしょう。

主宰：結構点が入っているのは、想像できるし有り得そうということ。詠めそうで、でもみんな遠慮して詠まないことを、これだけはつきり詠む句は少ない。どなたの句？

作者：じゃあ私で(笑)。

主宰：じゃあつて何。いやな会なので、これからは何年も「情事の人ね」って言われるかも(笑)。

もうわずか金魚と声を交わしたり 敏朗

主宰：金魚と声を交わすのはいいと思うが「もうわずか」はどういうこと？  
作者：金魚売りが、金魚が売れそうだから、もうお別れということ。  
主宰：「もうわずか」だけではわからない。「売られゆく金魚と声を交わしたり」に近いと思うが、売られるま

で「だ」とちよつと悲しくなるし、次回までの言葉を考えておきます。先ほどの「夜も更けて」の句とは趣きが違ふようだが同じ作者。もう少し言葉を選ぶ必要はあるが、この繊細な感覚を俳句に詠んでいくとよくなる。

心太佳人の箸につかまらず 鹿彦

主宰：発想にわざとらしさがなくおもしろい。ガサツとはなく上品に取るうとするから、つるつるとつかめない。「美人」ではつまらないが、「佳人」という少し古い言葉を持ってきたところもうまい。この作者は、よくデートをしているのでしょうか。

作者：佳人は奥さん(笑)。  
主宰：奥さんを家人ではなく佳人というところがすごい。

作者：作っている俳句を見られた時に困るから、アライバイ工作(笑)。

金魚鉢ひとつの宇宙の果ての果て 仁子

主宰：「果ての果て」がひつかかる。行つて戻る、と違つて、果ての果てだと言つちやつたまま。かつこはいいが、少し結論がないとそれでどうした、という句になる。掴んでいるものはいいが、言葉が足りない。

初デート金魚の視線面映し 仁子

主宰：この句にこんな点が入る？金魚は外にいないが、デートは外だし、金魚は中のもの。その辺がバラバラで未消化。「初デート」を代えて考えた方がいい。



▲自由闊達な会の皆さま



話好き髪洗わるる間にも 堅二  
 会員：髪を洗っている間も話しかけてくる床屋の主人か、銭湯でのことか。  
 一場面を切り取ってユーク。  
 主宰：話しかける店主と髪を洗われる作者がまぎっている。店主を主語にするなら「話好き髪を洗いし間にも」となる。  
 金魚鉢ピアノソナタに漣す きまぐらみ 堅二  
 少し大げさだが、おもしろい。でもこれは「金魚鉢」じゃなくて「金魚飼う」でいい。「鉢」が問題なわけではなく、金魚がいてピアノソナタに揺れているという、全体像をとらえた方がいい。  
 会員：マンションだと、夜ピアノを弾くと張り紙をされる。  
 主宰：はいはい。マンションの人でも、



▲「舶来のサングラス買い職を辞す」の句に、ほら「これだよ」とかけてくださった敏朗さん（二次会で）

★主宰の「初心者が中心の賑やかで楽しい会よ」とのお話を受け、お邪魔した会。期待に違わず、おおらかで多少艶っぽくて……こ男性中心の会その他にも、吉祥寺句会、日比谷句会、そして新しい「俳句とフランス料理を味わう会」など、俳句を身近に楽しみながら学べる試みが用意されている。月1回の俳句とその後の懇親会は、働く男性のいつときのオアシスであり、俳句が日常のエンジンオイルとして作用していると感じた次第です。（木戸敦子）

一軒家のつもりで詠んでください(笑)。  
 ◎他の作品  
 わだかまり解けて優しく髪洗ふ 久珠子  
 咲き零る小さき庭の百日紅 仁子  
 この話し切り出すべきか冷奴 敏朗  
 暮六つを片耳に聞く洗い髪 鹿彦  
 ツンとしてお肌色白冷奴 和男  
 猫の仔に金魚巨大や金魚玉 堅二



▲会のムードメーカー85歳の麦堂さんは元警察官

麦堂：「あと長くて5年だと思っている。自分の通夜の席で俳句や書いたものを配ろうかと考えたりしているが、そんなことでも考えないと、おっかなくてね。いろいろ算段している、死もまた楽しからずやの心境になる。この会のメンバーは家族みたいでここに来るのが楽しみ。私



▲元大手企業の企画マンだった代表の岩田さん。朝日新聞「俳壇」でよくお名前を見ます

台風による大雨のため、避難勧告が出ていた7月9日の午前、クロスバルにいがたで開催されたパツ句同好会の句会にお邪魔しました。中止にしようかと思案したものの、取材があること、誕生日をむかえるメンバーがいるというところで決行した、と代表の岩田さん。人数的には寂しくなったものの、本日85歳となった麦堂さんのお礼の言葉を皮切りに、楽しい幕開けとなりました。

パツ句同好会  
 代表 岩田 桂様  
 (新潟市・中央区)

この人は妹と子どもの中間みたいなもんだけどね」と、隣りの方に笑いかける。

本日の兼題は「梅雨明け」「噴水」「ハシカチ」「団扇」「ソーダ水」「昼寝」「爽竹桃」および自由題。6句提出の5句選で、選は、5重丸／1重丸まで5／1点をつけ、その合計点で本日の高得点句を決める。

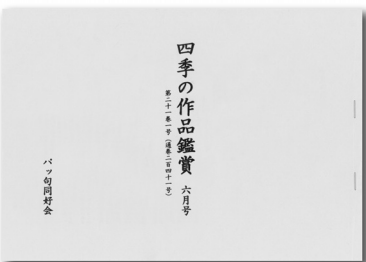
◎17点

カレー食ふ母の団扇を背に受けて 桂太  
 会員：中高生の子どものかな。その子が急いでカレーを食べているのを、母親が「わが息子も大きく立派になったものだなあ」と団扇であおいでいる。親子の愛情を強く感じる／17文字でよくこれだけ多くのことを言えるなあ。

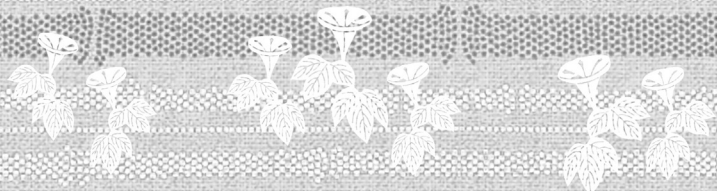
◎10点

絵扇にかくしおほせし面輪かな 加賀女  
 会員：表情が読み取れないように扇子で隠しているのな／きつと隠したいような微妙で複雑な表情なのでしょう。上品な感じのする句。

作者：恥ずかしくて隠すのにちようどいい。



▲毎月の「四季の作品鑑賞」は6月号で通巻241号。満20周年を記念して合同句集「季節のうた」(第参号)を発売。



◎9点  
面を脱ぎ勝利に火照る汗拭ふ 麦堂  
代表：剣道で相手に勝って面をとって座つて汗を拭つて、その光景でしようね。  
作者：これは、昇段試験で5段を取ったとき。今でもその時の情景がありありと思ひ出せる。

◎8点  
昼寝覚この世の今を確かめり 加賀女  
会員：起きて薄暗かったりすると、夜かと思うことも。夢うつだつた向こうの世界から、引き戻された今を確かめている感じがよく出ている。  
代表：「この世の今」は目覚めたとき、生きてるんだ、という感覚か。  
作者：朝だ！とハッと目覚めて、みんなを起すのを忘れたんじゃないかと焦つて、確かめたり。

◎7点  
ソーダ水つつくいつもの隅の席 桂太  
会員：「ソーダ水待たされてゐて疑はず」という鈴木栄子の句があつたが、若い女の子が彼を待っているのか、ソーダ水をつつきながら物思いにふけつていゝ。そんなほのほとした情景かな、と／二人が向かい合つていて、でも恥ずかしくてソーダ水をつついてる光景が浮かんだ／私は一人だと思つた、隅だと一人



向かい合つていて、でも恥ずかしくてソーダ水をつついてる光景が浮かんだ／私は一人だと思つた、隅だと一人

の感じがする。  
作者：二人です。  
会員：じゃあ、二人で隅の席でなにやかにやと話していたわけだ。  
作者：いえいえ、語ることもできないので：昔の夢です！（笑）

団扇にも北斎の富士見つけたり 小春  
会員：富士山は世界遺産になつたし、いい句だと思つて。  
作者：伊勢丹に行つた際に見た団扇に、赤富士が描かれていた。

◎5点  
夾竹桃球児に空の広がれり 加賀女  
代表：夾竹桃と百日紅は花期が長い。夏の盛りに咲くから、高校球児の季節とぴつたり。新潟鳥屋野球場の脇にも夾竹桃があつたからそのことかと。  
作者：サトウハチローの父、佐藤紅緑の著作に「夾竹桃の花咲けば」という高校球児が登場する小説があつた。  
会員：あんた博学だからな（笑）。

◎4点以下  
「団扇取つて」「そつちの新聞とつて」  
会員：我われ夫婦も同じようなことがしつちゅうあるので、共感していただいた。  
作者：先日、新聞の俳句欄で「江戸つ子ぢやございませんが初鯉」という句を見たが、話し言葉をそのまま使う句に挑戦してみた。

香しき泰山木の堂々と  
代表：「泰山木」という花の季語だけで、香しいことも、堂々としていること

も、すべて表現できる。これだと、水膨れ俳句になる。17音しかないのので、二重に泰山木の花を説明しているだけではもつたない。  
夏燕ニアミスなんて何のその  
会員：夏燕が跳ぶ、その様子をよく描写していてもしろいなあと。  
代表：作者は自分のことを言っているのでは？（笑）



▲代表の岩田さんの農園で作った野菜。全員に一袋ずつお土産として！

ハンカチーフその一枚の見当らず  
会員：「その一枚の」がミステリアスなところもあり、いろいろなことを想像させる。  
作者：たかがハンカチだけ、ないと困る。  
墓洗ふ母の名を待つ父の墓  
会員：墓には戒名や法名が刻まれるわけで：。でも待たれるお母さんはいやよね（笑）。

新ジャガの茹であがる頃昼餉かな  
作者：歳がわかるが、終戦後、主食の代わりにじゃがいもが配給になつたりして：今の新じゃがはほんと、おいしい。  
荒梅雨や句会ランチは海老真丈  
代表：では、行きますか！

代表が選ぶ本日の一／三席  
◎一席  
面を脱ぎ勝利に火照る汗拭う 麦堂  
◎二席  
昼寝覚この世の今を確かめり 加賀女  
◎三席  
不揃ひの梅もまたよし漬けにけり 若菜

★代表の岩田さんが、かつてスローフード・にいがたの代表を務めていたことは「句楽食楽」。句会のあとのランチとビールを楽しみに、今100店舗制覇を目指しているとか。この日は、豪雨のなか新潟の海老真丈発祥の店「茶はん」へ。パッと句が浮かぶようにと名付けられた「パツ句同好会」は、投句だけの方も含めて19名。おいしいものを食べ、俳句も上達し、時にはお土産もあるという、居心地のいい、いわば欲張りな滋養のある会なのでした。  
(木戸敦子)





▲「喧嘩はしたことがない。勝てば恨まれるし負ければ悔しい」と語る齋藤さん

『回顧録』

齋藤徳重様

(千葉県・印旛郡)

米寿を迎えることを記念して、4月に『回顧録』として来し方をまとめた齋藤徳重さんに、お話をうかがいました。

■昔のことがありありとテンポよく描写されています

何歳の時、こういうことがあったと、ほとんど覚えてる。『回顧録』では30、40代、60、70代のところが抜けているが、その部分を新たに書いたので、2冊目を年内に発行したいと思っている。

■よく次から次へと書けますね

以前は考えていなかったが、先が短いかからね。これがいいと思ったらやるし、よくないと思ったらやらぬ。昔から霊的なものを感じたり見えたりと、少し変わっていた。今回も「本を出しませんか」という宣伝はたくさんきたが、お宅を最初に気に入ってお宅だけがいいと思った。損得ではなく、いい

思っただけ。理由はない(笑)。ことほどさように、靈感がすべて私をいい方向に導き、多くの人との良き縁を得て今こうやって元気に何不自由なく過ごしている。

■著書からも楽天的な印象を受けます

何もないやなこと、苦になることがないから、楽天的になるしかない。ストレス？ どんなものなのだろうと思う。要するに悩まないし、苦しめない。「私の人生いつも青信号」で、ほんと不思議だがどこに行っても信号は必ず青。娘には「お父さん、休む暇ないね」と言われるが、休むのがもったいないし88年間これで生きてきた。何でも今が一番いいし、木戸さんとかうやうやして話して、今が本当に楽しい。きつとまたいいことがあるよ。

■そうであることを祈っております(笑)。

■霊的なものという？

交通事故で親友を亡くし、以来一周忌までの毎日、夜中に目が覚め時計を見ると亡くなった3時43分を指している。必ずその時間。いやだから風呂敷をかけてみたが、同じように目が覚めるので起きて外して見るとやはりその時間。ぞーっとした。

■その時計、止まっているわけじゃないですよね？

ちがうちがう(笑)。それが一周忌の法事が終わるとピタッとなくなった。大分に住んでいた50代の頃には、焼けつくような喉の痛みで受診すると、大きな病院を紹介された。癌だと観念し、その足で太宰府天満宮へ行き2回目の拍手を打とうとしたその瞬間、ゾクッと寒気を感じ咳払いをすると、咽

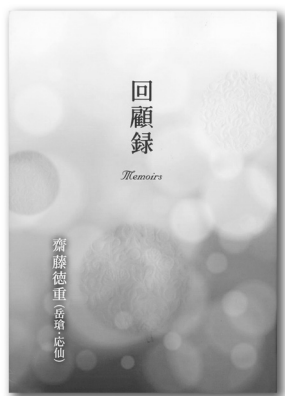
からピンポン玉大の赤黒い鉛玉のようなものが飛び出した。同時に、ゴーツという音とともに喉の奥から冷たい風が吹き出し、それまでの喉の熱さも激痛も雲散霧消、まるで夢のようだった。ただ、その霊的なものの悪戯も、3年前の妻の交通事故以後は皆無となり、その事故が原因で10ヶ月後に妻を失った。

■それはショックでしたね

九州から何の縁もない千葉に引越して、親子4代で暮し、最初は知らない人ばかりだったが今は知った人ばかり(笑)。現在は、娘夫婦と3人の上げ膳据え膳の、まさに人の羨む老人生活。特に一人娘との晩酌は舌鼓を打ちながら、昔話や思い出話を花を咲かせ、いつ終わるとも知らない美しい食卓。昨年には娘婿と孫が交代で運転し長崎や伊勢神宮へ連れていってくれた。この一週間の家族旅行は、幸せの極みだった。

■本に関しては？

米寿を記念して、今までの思い出を俳句を交えて書いたが、みんなよく書けている、立派な本だとほめてくれる。先日は、孫に曾孫にと大勢集まって祝ってくれた。ワープロは得意中の得意



▲『回顧録』2冊目が待たれます

意だし、また書きたいと思っている。

■これからは？

学校の先生の影響で、小3から始めた詩吟は生涯現役。この後、2時には師範に指導に行く。そんなときね、日ごろ母に見立てている近所の石材店の観音様の前を通るたび「おかあちゃん」と拜んでいるの。もう88歳になるのにね(笑)。これからは、詩吟と俳句を生きがいに、何ら悔めることなく天寿を全うしたい。

『回顧録』あとがきより

老いは嬉しくもあり、悲しくもありの感一人のこの頃、余生あと幾何かは知らねども「花は紅く柳は緑麗しく、降り積もる雪にも耐えて色変えぬ、氣高い松の如くありたい」と、今、私は思う。

★「何をしている時が一番楽しい？」の質問に「全部楽しいからどれでもない」。「いやな人？私に関係した人で悪い人は一人もいない。あんたもそうだよ。みんないい人ばかり」と、ここまで言い切る齋藤さんに目が点になる。ウエイトレスの方にも「いやあ今日の料理は特別においしいねえ」と声をかけ、写真を撮る際にも様々なポーズをとってくださり、今がいかに楽しく最高の時になるかを何の計算もなくできる「生きることの達人」なのだ。お会いしてこんなに得した気分になる方も、そうはいない。(木戸敦子)

# 投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり 2014年9月16日(火)まで  
※作品は原稿どおりに掲載しております。

## 俳句

- 1 冷奴父母亡くしきつぱりと  
五十嵐睦博(新潟県)
- 2 野良猫がうちねこになり梅雨の入り  
河野静子(埼玉県)
- 3 フラメンコその手拍子に夏兆す  
星輝子(東京都)
- 4 古里を遥かに想うつつじかな  
関原幸子(東京都)
- 5 夜をこめて山梔子<sup>くちなし</sup>匂ふ逢瀬かな  
井原毬子(東京都)
- 6 コンクリの乾いた街や薄暑光  
松田重信(埼玉県)
- 7 思ひ出を墓碑につぶやきカーネーション  
有坂馨園(福島県)
- 8 凜として介護勤む白菖蒲  
神作洗江(埼玉県)
- 9 夏海や夢の楽園  
遠汽笛  
河合ヤスエ(大阪府)
- 10 遠雷の響きでかなたに佐渡ヶ島  
若月理依子(新潟県)
- 11 逆立ちの富士の産毛に早苗かな  
星野三興(新潟県)
- 12 佳き人に肩をたたかれりラの街  
小島岳青(新潟県)
- 13 香水をつけ来し悔いや通夜の席  
高崎登喜子(東京都)
- 14 シナトラを聴く朝焼けのサンルーム  
川口襄(埼玉県)
- 15 夏検診人並以上の肺活量  
柳澤京子(宮城県)
- 16 牡丹の香り残して散りゆけり  
田中恵美子(山形県)
- 17 初ものの胡瓜がなつた河童にも  
沢田稲花(山形県)
- 18 もみじの手竹とんぼのる青嵐  
穂積光子(東京都)
- 19 三日月の輝く空に真夏の夜  
渡辺勇治(埼玉県)
- 20 老いさらり脱ぎて青葉の人となる  
大西誠一(岐阜県)
- 21 夏冷えてさへつりの無き雀かな  
小井寒九郎(三重県)
- 22 緑啄木鳥の高音は遠き森の中  
渡邊碧海(静岡県)
- 23 薔薇館門扉閉るを背なでなく  
石井美智子(埼玉県)
- 24 栗駒山の夕陽まぶしき青田波  
大場きよし(宮城県)
- 25 セシウムの穴出し蟬の声平和  
田島星景子(宮城県)
- 26 袖口をひとつ折り上げ街薄暑  
阿部徳夫(宮城県)
- 27 はんなりとこつたうとつてこひつづり  
阿部澄江(宮城県)
- 28 カフエラス底がおいしいチョコパフェ  
関根千恵(埼玉県)
- 29 真白な歯が笑つてる日焼けの子  
田中美智子(埼玉県)
- 30 雪載せた就職列車は上野駅  
山崎吉晴(群馬県)
- 31 一杯のあとの清しき新茶の香  
小形さだ(東京都)
- 32 ありがとう柩にそつと夏帽子  
堅田秀子(東京都)
- 33 深緑や生命みなぎる自然界  
大内泰子(東京都)
- 34 些事忘る泰山木の花  
青木凉子(埼玉県)
- 35 風匂ふ明るくなりし薔薇の庭  
竹本美美子(新潟県)
- 36 若葉道ここは一気に行きましよう  
居原田連星(大阪府)
- 37 折目やや弛みてたたむ秋扇  
清水勝子(神奈川県)
- 38 苺り立ての芝に遊びて夏雀  
吉田加代子(新潟県)
- 39 潮騒の音なつかしきサングラス  
環順子(東京都)
- 40 ひき際はふわりふわりと花菜風  
松涛千鶴子(東京都)
- 41 一匹が鳴けば合唱田の蛙  
大橋恒次(新潟県)
- 42 青鷺の見つむる水面雲わたる  
大谷茂(埼玉県)
- 43 トタン屋根激しく叩く梅雨雷雨  
乾久子(滋賀県)
- 44 薪能朱焰虚空放ちたり  
野木宗信(奈良県)
- 45 戦時より噛みしめて来し豆ごほん  
神一男(静岡県)
- 46 孫に尻押されて登る花茨  
井上静夫(栃木県)
- 47 亡き母にサマーチェリーを飾りけり  
樋口二葉(三重県)
- 48 枇杷喰うて大志のありしころ想ふ  
古川正栄(千葉県)
- 49 向日葵やゴツホの黄を思ひ切り  
近藤薫也(千葉県)
- 50 朝顔や私好みの朝の顔  
早矢仕邦夫(愛知県)
- 51 一木郡一枝一番蝸牛  
椋本望生(大阪府)
- 52 早苗饗やフランス料理のフルコース  
湯浅芳郎(岡山県)
- 53 襟擦れに母を偲びて更衣  
野村牟人(東京都)
- 54 脅威なる梅雨の臆志や仰ぐ空  
内河邦久(東京都)
- 55 大井川老船頭の茶摘唄  
古谷力(東京都)
- 56 橋一つ二つ目渡り花擬宝珠  
矢野絹枝(東京都)
- 57 海見つめ終の棲家かはまなすや  
松尾らん(東京都)
- 58 クツシオンを枕に昼寝海老の如  
檜山とり子(東京都)
- 59 檀の実今青春の真つ直中  
炭崎博(滋賀県)
- 60 八十路坂梅雨明けを待つ三合目  
花塚三郎(千葉県)
- 61 郭公や山河を奮ふ放射能  
篠原三郎(静岡県)
- 62 地球には国境なしと夏つばめ  
武市愛子(大阪府)
- 63 あてのなき一日切符梅雨晴間  
坂山陽康(滋賀県)
- 64 夏衣母の思い出まといけり  
山田幸代(兵庫県)
- 65 豆飯やいつか互ひに国なまり  
佐瀬千恵(神奈川県)
- 66 気高かきは香りもゆかし桐の花  
西條公雄(埼玉県)
- 67 絡繰はちやつきり節や駅うらら  
佐野和彦(静岡県)
- 68 しゃくなげが迎へ家族は家に入る  
安部哲(新潟県)
- 69 睡蓮のもの憂き午後目覚めかな  
紺谷睡花(東京都)
- 70 水中花無人の部屋に電話鳴る  
林克(福島県)

- 71 更科や柚子の香紡ぐ喉の福  
山田富朗(埼玉県)
- 72 どこからか水馬二ひき漕  
寺内侘(埼玉県)
- 73 太古の海ヒトとクラゲと共棲す  
阿部至(埼玉県)
- 74 白紙にはもう戻れない濃あじさい  
井田由利子(宮城県)
- 75 末期とか驅覚ませり春キヤベツ  
千代田俳徒(東京都)
- 76 原発と向きあう風の夏の海  
江口肇(福島県)
- 77 枇杷の実や家庭訪問初日です  
星一子(神奈川県)
- 78 カンバスの藍ひかりゆく初夏の海  
上村元義(神奈川県)
- 79 やや寒や義足洗いし水の音  
加用章勝(千葉県)
- 80 時の日にネジを巻かれし古時計  
水落重武(新潟県)
- 81 短夜の夢にまみえし友いざこ  
堀木和子(大阪府)
- 82 薮戸や潜りて払ふ夏衣  
浦橋渴雪(兵庫県)
- 83 チャグチャグとひづめの音の田舎路  
杉村美保子(岩手県)
- 84 仔ネズミはメスでも喰い気の端午かな  
白戸麻奈(東京都)
- 85 父の日やその生涯の浮き沈み  
川崎洋吉(福岡県)
- 86 口瞑る瀬音の流れ鮎釣り師  
大塚徳子(埼玉県)
- 87 菩提寺の雨烟る中山法師  
小澤円梨(静岡県)
- 88 にぎやかな君の声する田植かな  
浅野信廣(宮城県)
- 89 八十路坂藪蚊も好みありなしや  
中高純子(新潟県)
- 90 水平線に緑の閃光白夜なり  
小林春雪(新潟県)
- 91 あるがま、生きながらへし去年今年  
塚田寿子(埼玉県)
- 92 なめくじら一夜の存在たどりけり  
阿部幸子(宮城県)
- 93 体操の順序違えし薄暑かな  
渡辺由美子(宮城県)
- 94 仙台の今日は青空花辛夷  
副島加代子(宮城県)
- 95 陽も雨もほどくにして草茂る  
栗原黎(群馬県)
- 96 梅雨の傘整形外科に溢れをり  
小野正光(宮城県)
- 97 風鈴の響きてそと手をにぎり  
竹田栄(東京都)
- 98 いつの間に貴方だけ追ふ恋童  
白岩賢次(福島県)
- 99 逃げ足は別の足かもかたつむり  
北村純一(神奈川県)
- 100 青嵐植田でつばめ落ちそうに  
島口健次(神奈川県)
- 101 鮎の香や消えぬ手のひらにぎり飯  
三津木俊幸(千葉県)
- 102 羊水に浮びし記憶夏の月  
鈴木智子(千葉県)
- 103 一滴の一滴を呼び滴れる  
吉村充治(埼玉県)
- 104 目標は生きることなり田を植える  
中嶋清子(佐賀県)
- 105 釣糸をめちゃくちゃにせし鰻かな  
吉里ひとみ(東京都)
- 106 麻のれん分けて老舗の鮎の菓子  
大阿久雅子(埼玉県)
- 107 慰霊の日まだ基地残る憤怒かな  
福岡悟(東京都)
- 108 沖繩の日改憲議論かまびすし  
山東爺(北海道)
- 109 日方水ブリキの金魚が浮いてゐる  
梶鴻風(北海道)
- 110 田草取る雨上りの土ほこほこ  
有田裕子(北海道)
- 111 風の声倒れしままの麦の秋  
杉原明子(静岡県)
- 112 公園のベンチ静かにつじ咲く  
木下精(大阪府)
- 113 国敗れ山河に残る大暑かな  
鮫島茂利(兵庫県)
- 114 座禅せる眼前を這ふ毛虫かな  
津田吾燈人(高知県)
- 115 白南風や隠れ耶蘇らし墓一基  
津田忠彦(岡山県)
- 116 枝豆は彌彦娘と愛めらる  
菅井文男(新潟県)
- 117 曝す書に妻の手書きの塩加減  
田中昶(鳥取県)
- 118 夏潮や舳先に立ちし若き漁夫  
邑橋節夫(兵庫県)
- 119 蟬時雨西行庵を包み込む  
山本直子(大阪府)
- 120 蛍来る木椅子のひとつ「恋人席」  
榎本嗟督有(大阪府)
- 121 剪定のハサミ書を容赦なく  
青木ケン子(埼玉県)
- 122 琴の音に耳遊ばせて花菖蒲  
菅原茂子(宮城県)
- 123 十年先を見据えるなんて雷鳴す  
池田岬(埼玉県)
- 124 ポストまで回覧取りに夏帽子  
塩崎須美子(神奈川県)
- 125 夫の忌の季節を告ぐる花水木  
清まさし(静岡県)
- 126 弥陀仏に見下ろされをる涼しさよ  
一瀬正子(埼玉県)
- 127 朴の花の見える窓まで兎の歩み  
井上氣海(広島県)
- 128 路地隅に打上げ花火の彼の顔  
忍正志(兵庫県)
- 129 噴水の止みて孔雀の鳴き初めし  
小林七重(新潟県)
- 130 網戸してこゝろも開放エゴの風  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 131 万緑や太極拳の腰きまる  
小山たけし(埼玉県)
- 132 じゃんけんで負けて平家蛍になりにけり  
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 133 余念なし挽ぎては口へさくらんぼ  
川嶋法子(東京都)
- 134 隠れても鳴かずにをれぬ雨蛙  
石井登(大阪府)
- 135 さまざまに喜寿を迎へて夏の宴  
駒場京子(神奈川県)
- 136 冷麦茶選手と共にベンチ入り  
長峰正晴(千葉県)
- 137 すれ違ふカラフルな傘梅雨の街  
寛裕紀子(滋賀県)
- 138 打水に木木の緑のしたたれて  
森俊彦(神奈川県)
- 139 合歓咲くや妻鬪病のあの日にも  
坪田勝秀(鹿児島県)
- 140 救急車叫びてゐたる炎天下  
油谷郷史(兵庫県)
- 141 いとこ芸名残りつきない昭和の日  
芋木匡子(滋賀県)
- 142 春暮色昭和の流れ八十路生く  
木村舳(山形県)
- 143 唐菖蒲ハモニ子の子の何処やら  
高垣勝代(大阪府)
- 144 真珠よりもっと大事に核貝  
磯部力(新潟県)
- 145 夏の蝶道間違えて間違えて  
岩崎政弘(岡山県)
- 146 慎ましく言葉どおりに壺董  
中山日出子(大阪府)



- 147 一花つつ挿さる白百合潮仏  
木村貞恵(静岡県)
- 148 母の日の微笑むえくほ懐かしむ  
大久保アヤ子(東京都)
- 149 緑陰に亡き犬の名を呼びてみる  
清水喜代子(岡山県)
- 150 ジョギングの前も後も若葉風  
松前邦広(千葉県)
- 151 山吹きの散りて水車に遊ばるる  
片山茂子(埼玉県)
- 152 風清き山の夜明けぞ朴の花  
宮崎敏昭(埼玉県)
- 153 紫陽花に夢中のスマホ忘れ傘  
西口東治(大阪府)
- 154 大いなる世界遺産の富士雪解  
山本理香(大阪府)
- 155 新茶来る森の石松連れて来る  
大窪美代子(大阪府)
- 156 湖の風来て麦秋の波となり  
澤雅子(大阪府)
- 157 一人居の約しき夕餉冷奴  
田野倉訓郎(東京都)
- 158 朝起きて一番に汲む新茶かな  
中村慶子(滋賀県)
- 159 少女期の赤い鼻緒や蜻蛉とり  
布目雅之(東京都)
- 160 新緑の五重の塔や古都巡る  
福田和子(東京都)
- 161 なつかしき顔に出会ひし盆踊  
成田節子(山形県)
- 162 山深し箱根卯木の咲き満ちる  
小林紀美子(東京都)
- 163 ここよりはくらがりがり峠ほととぎす  
池本勇(奈良県)
- 164 戦をのみこみし湾草青む  
黒岩正子(埼玉県)
- 165 蛙鳴く戦争ニューステレビより  
石戸幸子(埼玉県)
- 
- 166 巫女坐して不老告げ告げ梅雨明ける  
藤井春三(埼玉県)
- 167 巧妙な詐欺免れて梅雨しとど  
岡村君枝(茨城県)
- 168 地の恵み手にする初茄子初胡瓜  
長野光康(神奈川県)
- 169 だしぬけに鴉飛び立つ梅雨の森  
鈴木清子(埼玉県)
- 170 こもれびや砂を吐き出す蟻の穴  
二瓶邦枝(埼玉県)
- 171 梅雨晴れや水を含みて杷わたり  
塚谷秀夫(東京都)
- 172 仕合わせつて些細なこころソーダ水  
服部八重子(東京都)
- 173 夏至といふ日を存分に針運ぶ  
中田文子(大阪府)
- 174 梅干して妻は益々母に似る  
鈴木蝶次(宮城県)
- 175 真つ青な湖を広げて朴の花  
浜田はるみ(埼玉県)
- 176 緑蔭や江戸より続く不老水  
岡野智恵子(埼玉県)
- 177 梅雨晴れ間百花繚乱布団干し  
針生清(千葉県)
- 178 芋植える五指に明日の願ひ込め  
田野井一夫(栃木県)
- 179 青田中二羽の白鷺むつまじく  
道給一恵(埼玉県)
- 180 戻れない疲れを知らぬ夏休み  
杉本敬治(愛知県)
- 181 猫らにも自分史のあり鯛雲  
増本和子(大阪府)
- 182 父の日の作務衣に雪駄てれくさし  
中村康浩(福岡県)
- 183 八畳間トカゲキョロキョロ交みをり  
北野耕兵(千葉県)
- 184 セルにして笠碁の友が待ちにけり  
吉川伸生(福島県)
- 
- 185 暑い日々チャリンコ夫婦デイケア  
水越アツ子(三重県)
- 186 古いぬれば雨の日も佳し蝸牛  
永井俊樹(兵庫県)
- 187 たまゆらの風ふうりんは見逃さず  
羽根田明(神奈川県)
- 188 相席の幼な愛らし心太  
平野貴美(東京都)
- 189 近道は駅まで五分柿の花  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 190 授かりし命守りて夏衣  
今井勝子(新潟県)
- 191 まだまだと云ひつづ古いぬ夏落葉  
岩村昇(神奈川県)
- 192 見上げれば雲の玉に沙羅の花  
中村和弘(愛知県)
- 193 まどろみの夢はうたかた花の昼  
柴田恵美子(北海道)
- 194 浴衣少し長めになりし背丈かな  
村山徳英(埼玉県)
- 195 綱なす水蹴りにけりあめんぼう  
鈴木岑夫(千葉県)
- 196 イラクには再び戦渦沖繩忌  
高杉杜詩花(北海道)
- 197 夏蝶の銀座を目指し飛び行けり  
緑川禎男(埼玉県)
- 198 行々子過疎の在所を離しけり  
西川孝子(奈良県)
- 199 庭石に見られていたる夕端居  
重原昇(新潟県)
- 200 凜としてひっそり咲けり半夏生  
岩崎令子(大阪府)
- 201 花街のほひ残りかきつばた  
松嶋光秋(東京都)
- 202 暮れ惜しみ暮れるやすらぎ花さつき  
中澤寿美(神奈川県)
- 203 小さき手を開いて見せる雨蛙  
山岸伊久雄(東京都)
- 
- 204 華やかに終の栖か水中花  
天野輝子(東京都)
- 205 梅漬ける媼卒寿の心意気  
伊藤やゑ(東京都)
- 206 郭公に起こさる朝の平和かな  
石川郁子(埼玉県)
- 207 迷い蟻地の獣臭を嗅ぎつけて  
辻升人(東京都)
- 208 薄紅つけて誰を待つのか百合の花  
勝田久美(大阪府)

## 短歌



- 209 コンビニの再生かけてつくりたるセブン  
イレブンおでんは旨し  
清水英雄(東京都)
- 210 天下の陽のあたる坂道を一日一日汗  
だくで一生けんめい歩いている  
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 211 百五年の薬局つぐと息の通ふ朝八時  
シャッター一枚開けて待つなり  
高須孝(愛知県)
- 212 もう一度取り戻したしこの笑顔古き  
写真に話しかけたら  
音喜多千津子(埼玉県)
- 213 再稼働司法のNOに大拍手されど政  
府は稼働を急ぐ 黒澤正行(福島県)
- 214 恋をする事の喜び再のあの娘の笑顔  
宝なりけり 安木沢修風(新潟県)
- 215 早苗田に白き雲満ちせきれいの尾を  
ばふりふり水のむが見ゆ  
緑川葉子(福島県)
- 216 子等育ち二人になりし夕餉あと線香  
花火に妻は興がり  
北澤実夫(東京都)
- 217 気の強さ娘に渡し遺伝子を預かりし  
母に一步近付く  
小俣はる江(山梨県)



- 218 昨秋に種より出でし二葉から梅雨の晴れ間に赤き蕾が  
出井静枝(三重県)
- 219 塀を越し花垂る藤の花房に風の運べる雨かかりをり 佐々木都(長野県)  
農は国の大本と教わりしこと百姓われは矜恃におもう  
藤原昭三(滋賀県)
- 220 届けたき思ひのありや「二つ折りの恋文」蝶の行きて戻れる  
渡邊美枝子(山梨県)
- 221 この道は往きてはならじ往かせてもかつて通りし戦への道  
山田楽山(埼玉県)
- 222 わが余白指折りに足る終なりて墓碑のカタログ目に染みてゆく  
早坂絃司(北海道)
- 223 大口を開けて首振る子燕に依怙鼻眞なきつばめの親は  
青木日出男(群馬県)
- 224 富岡製糸工場世界遺産に定まれり女工の哀史知らるる嬉し  
今井忠一(東京都)
- 225 百問近逝きて隣のご老女の顔見てオシヤレまだ間に合うと  
佐伯セツ子(香川県)
- 226 山の鼓動いくたび聞きし靴なりき底にくいこむ小石を除く  
後藤美佐子(長崎県)
- 227 飛べぬ子雀かごに入れ庭木に吊るせば親兄弟か家族中で餌を運びて巢立つ朝  
工代康子(香川県)
- 228 山なみにかかれる雲の薄れゆき大気は澄みて薫風香る  
寒川靖子(香川県)
- 229 さくらんぼ一つ一つとまろき実をふぶめば戻る幼かりし日に  
萬濃その子(神奈川県)
- 230 我が家も五十余年で「ガタ」が来た米寿を過ぎた吾と競そう  
凶子利明(兵庫県)
- 231 陽に向きて松葉菊の花ひらく夏の朝に暫し眺むる 小暮昭司(群馬県)  
幾度か挫折創業の天秤棒五代目われは盛岡に置く 久保和友(滋賀県)  
老うごとに足腰弱く頼る杖粹に使つて心も若く 峯田まり子(奈良県)  
生きおれば古希を迎える妹よ紫陽花咲いたよ見てちょうだい  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 232 早起きの褒美なるらしカツコウのたつた一声耳に新し 田中豊恵(新潟県)  
ゆつくりと泥土の濁り澄みゆきぬ苗植え終えし田の面静まり  
桑原謙一(群馬県)
- 233 故郷は朴の木の花咲きみちて大願成就のアンパンマン先生  
西山悌三郎(高知県)
- 234 おだやかな朝陽輝く庭の木々心静かに鳥の声きく 高橋登志子(新潟県)  
梅雨の間の強い日ざしはもう夏日汗をかきかさわれ走っている  
新井賢(埼玉県)
- 235 梅雨時のうとうとしさを弾かれと沙羅の花をば友より至り  
辻忠城(東京都)
- 236 一台のラジオに集落びと寄りすがり腑抜けとなりし夏昼下がり  
高橋卓二(新潟県)
- 237 早朝の静けさやぶる雀達ピーチクパーチクさあ出発だ  
西井喜江(大阪府)
- 238 耳の裏夜の童話を積んでいる  
戸田美佐緒(埼玉県)
- 239 宿酔に懺悔の水が効いてくる  
関本守(新潟県)
- 240 本論より余談がうけて眠らせず  
石原岳(群馬県)
- 241 薪背負いスマホ見ている金次郎  
橋本世紀男(東京都)
- 242 幸せのすぐ側に居て気付かない  
野田明夢(新潟県)
- 243 糖高め酒は目で呑む医師厳し  
植松與悦(山形県)
- 244 戸を練れば母の声する里の家  
守屋高雄(岩手県)
- 245 年金を狙われたようプロポーズ  
藤井碩子(山口県)
- 246 平和には修飾の語は似合わない  
原崇雄(埼玉県)
- 247 癒された老犬認知恩返し  
大橋絵代(千葉県)
- 248 グリーン車に初めて乗ったフルムーン  
藤沢健二(千葉県)
- 249 二時間を無我の境地にする写経  
木村誠一(神奈川県)
- 250 何を血迷うたか闇を縫う虫  
安田翔光(香川県)
- 251 クーラーにお疲れ様と礼を言う  
細川光子(栃木県)
- 252 昼寝中雷様が起こしに来  
大江秋月(兵庫県)
- 253 幸せを築いた裏に妻の汗  
鈴木義雄(福島県)
- 254 朝ドラで会話が弾むあさのお茶  
諸橋文男(新潟県)
- 255 クリミアのいくさにナイチンゲール知り  
土谷敏雄(秋田県)
- 256 透き通る服が電車に乗ってきた  
石神紅雀(鹿児島県)
- 257 待ちわびた夏の暑さが疎ましい  
岡本恵(茨城県)
- 258 鶏頭を見たいと老母の車椅子  
竹村穩夫(大阪府)
- 259 壁一重咳するのさえ気を使う  
近藤はつみ(福岡県)
- 260 念押されハイと答えて忘れてる  
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 261 一円の値打ちがレジ前で発揮  
益永克之(福岡県)
- 262 忘れたは火種を消せる良い言葉  
福地義雄(沖縄県)
- 263 爽やかに生きたし今朝も髭を剃る  
久本にい地(岡山県)
- 264 どん底の暮ささえる母の腕  
大岩歌子(岡山県)
- 265 太陽とおしゃべりはずむミニトマト  
小山恵美子(大阪府)
- 266 湯気が立ち込めているから美人の湯  
丸山芳夫(東京都)
- 267 マンガ本近未来像うつし出す  
森恒雄(愛知県)
- 268 レトルトを並べてハイご飯です  
深尾さく(神奈川県)
- 269 敗戦日彼らの国は祝勝日  
齊藤安弘(神奈川県)
- 270 お二階へエスカレーターおもてなし  
三宅得三(新潟県)
- 271 先取点守りきれない気の弱さ  
松尾健二(千葉県)
- 272 デジタル語ペラペラしゃべるヤング達  
近藤富夫(東京都)
- 273 何かあるひらめく納税第一期  
山口昇(群馬県)
- 274 花の路五感いきいき蝶になる  
奥那於子(大阪府)
- 275 核心のモザイクの先見せぬまま  
高柳閑雲(愛知県)
- 276 監督は奮気願って代打出す  
高橋久仁子(福岡県)

- 283 沖縄をポンペイに基地押しつける  
仲里達也(神奈川県)
- 284 彼の好き寂しがり屋がやさしくて  
田村としのお(沖縄県)
- 285 Eカップゆつくり打診若い医者  
山崎一嘉(愛媛県)
- 286 ソーメンを喰べろ喰べろと夏がいう  
奥田音野(香川県)
- 287 ポジティブに生きる笑顔の健康美  
後藤すゑひろ(福岡県)
- 288 踏み込めば異国の街か新興地  
濱田イサオ(福岡県)
- 289 荒海に夕日と佐渡が一セツト  
村岡盛英(群馬県)
- 290 辞書にない言葉が過疎に生きている  
渡部美代子(山形県)
- 291 もう少し届く届かぬもどかしさ  
藤井北灯(福岡県)
- 292 自己紹介十に八、九は「子」のない娘  
石尾曠師朗(東京都)
- 293 手術終え皺よく見えて幸せか？  
南喜美子(千葉県)
- 294 野の花は野にあつてこそ美しい  
小林恵子(大阪府)
- 295 夢を追いつつバラになつてく青りんご  
宮川華余子(山梨県)
- 296 手をかそか母子の前の乳母車  
伊藤敬子(宮城県)
- 297 巻き戻し出逢つた頃に帰りたい  
山口千鶴子(東京都)
- 298 最期までの傘をたたむのは私  
やまぐち珠美(神奈川県)
- 299 紅付けぬ方がよかつた稚児もいる  
奈倉楽甫(愛知県)
- 300 弥陀の掌に私を結ぶ亡母の糸  
岡本邦子(福岡県)



## 6月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございました。その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

### ◎短歌部門

12 遅き母待つ子は窓にの字書く保育  
所内に独りとなりて  
青木日出男(群馬県)



青木日出男様

・くもったガラスの先に母親をいち早く見つけようと待ちわびる姿、せつないです。音喜多千津子(埼玉県)・情景が目につぶような一首で言葉もよく整っています。後藤美佐子(長崎県)・働く女性、少子化社会の断面をみる。いとしい。母親頑張れ 田中昶(鳥取県)・サービス残業か母の迎えはまだだ。待つ子はせつない気持 齊藤安弘(神奈川県)・早くお迎え来ないかな。子どもの心理が伝わります。出井静枝(三重県)

### 【自句自解】

毎日が 泣き笑い 保育所の日

総合病院に勤務する職員の子供を預かる保育所、朝は七時頃には預けてゆく父や母。子供達も一才から小学校就学前の六才ほどの年長者もいる。別れる時の泣き方も小さい程保育士泣かせた。

夕べはお母さん達が迎えに来る。言葉に出ないが目と目でもうしかりと話し合っている。小さい心で予定より遅くなる子は保育士が二、三人でお話するが、淋しさが加速する。指は自然にお母さんと呼ぶ。

### ◎川柳部門

84 原発の末路を誰も語らない  
高柳閑雲(愛知県)



高柳閑雲様

・解っているようだが解っていないから河合ヤスエ(大阪府)・事故器は三年経つても止まらない。冷却水は海に出、又、煙突となつて吹き出し汚染している。もう忘れたのか知つても語らない菅井文男(新潟県)・日本の原発の弱点 森恒雄(愛知県)・時事句の最大の問題提起です。松尾健二(千葉県)・それが知りたい 奈倉楽甫(愛知県)

### 【自句自解】

まず私は、原発という単語を思いたくありませんでした。原発は原爆を想起させるからです。福島第一を廃炉にするのに40年、更に高レベル放射性廃棄物の処分地すら決まっています。国内には48もの原発(敢えてこう呼びます)が全て運転停止に追い込まれ、稼働していません。原発の再稼働については、推進派、反対派ともに、将来の日本を考へ、是非、末路まで論議していただきたいと思っています。日本には世界に誇れる技術があります。

### ◎俳句部門

147 身の丈に見合ふ暮しや冷奴  
田中昶(鳥取県)



田中昶様

・冷奴に苦笑い 五十嵐睦博(新潟県)・停年を迎えた私にはよく理解できません 大西誠一(岐阜県)・背のびせず無理もせずその人なりの生活が良い。同感です。田中美智子(埼玉県)・「身の丈」「ほどほど」が人の世では大事。冷奴の扱ひも妙 寺内侘(埼玉県)・冷奴がいいですね。身の丈とよく合っています。堅実さが見えます。星一子(神奈川県)・身分相応の食事が安心 阿部幸子(宮城県)・作者のつましく謙虚な暮し方を象徴的、端的に詠んでいる。邑橋節夫(兵庫県)・身の丈に見合う生き方は、むつかしいものです。坪田勝秀(鹿児島県)・庶民の生活その通りと 木村舩(山形県)・しみじみ同感が伝わります。岡村君枝(茨城県)・背伸びせず地道に生きる姿が浮びます。針生清(千葉県)

### 【自句自解】

季題は「冷奴」。簡単にだれでもできる夏の料理で、簡単なイメージをもつ私は年金生活者です。息子二人は市内に独立、妻は三年前に他界。今年米寿を迎え、現在独り暮らしで自炊外食の繰返しです。この句は年金改正の年であり、暮しへの自戒の一句でもあります。身の丈云々とは、「分相応」の生活のこと。つましい暮しぶりの実相を冷奴に

重ねて表現したつもりです。今後も句作に励み、晩節を汚さぬよう念じています。

### 《短歌》

19 犬と棲み君は湯舟に倒れ居り知るは  
犬のみ五日も過ぎて

野木宗信(奈良県)

・高齢化の社会のひずみ 黒澤正行(福島県)・私も犬と二人？暮し。夫逝き二十六年。つくづく感じる昨今 栗原黎(群馬県)・家族人数の減少やご近所との交流も少なくなってきた今日、少しでも孤独死が減るように地域との交流も保っていききたいと思います 峯田まり子(奈良県)・最近知人も同じ様に亡くなったのでとても親近感を覚えた 岩崎令子(大阪府)

### 《川柳》

87 生き様に序列があるか叙位叙勲

嶋田征次(東京都)

・「王侯将相いざくんど種あらんや」原崇雄(埼玉県)・人を誉めるのに勲何等？はない！(現在は他の言葉に変更) 西條公雄(埼玉県)・それぞれが喜怒哀楽のドラマを経て長い人生ここまでやってきました。皆、一緒です 奥那於子(大阪府)・誰が序列をつけとらんや！本当に腹立たしい 有働茂治(熊本県)・春、秋毎年授与があるが私には何も縁のないこととごさす。と同感です 伊藤敬子(宮城県)

### 《俳句》

208 ふらふらこを志村喬になりて漕ぐ

羽根田明(神奈川県)

・命短し恋せよ乙女 解る人には解る

男の哀愁 高崎登喜子(東京都)・記憶にまちがいがなければ「生きる」という映画の中で、死に向き合う志村喬がブランコに乗る場面での迫真のシーン 有島和子(東京都)・昔なつかしく志村喬を想いだしました。来し方遠くなりました 青木ケン子(埼玉県)・志村喬という名優を思い出させた 岩村昇(神奈川県)・「いのち短かし恋せよ乙女：」のあのブランコシーンが浮ぶ佳句 鈴木岑夫(千葉県)・志村喬主演の昔に観た映画の場面が思い返されてきた 高杉杜詩花(北海道)

### 《他にも》

18 散りてこそ桜と言ふや夕暮を薄きく  
れなぬ掌にのる

渡邊美枝子(山梨県)

26 老を生きることの切なき溢れくる迷  
子無線の今日も鳴る街

村山徳英(埼玉県)

58 芸術のかたちになつてゆく粘土

安田翔光(香川県)

61 恋文に二円不足と付箋つき

土谷敏雄(秋田県)

133 福島を逃がれし子らと蓬摘む

小野正光(宮城県)

225 花筏人それぞれの行方あり

長島保子(東京都)

228 爽やかや手話の言葉の子は返す

中野勝子(鹿児島県)

266 初産の近き菜の花月夜かな

岡村君枝(茨城県)

288 生業の戻らぬ村や辛夷咲く

鈴木与平(宮城県)

※ 今後もふるつてご投稿をお願いいたします！

# 新潟ぶらり

## ★月岡温泉―開湯百年、美人になれる温泉

新潟の奥座敷といわれる月岡温泉。新潟平野の端、やや内陸にはいった辺りである。地図をみると、山がすこし近い、田園のなかの温泉地とわかる。新潟駅からは車で四十分程。月岡に入ると車内も硫黄の独特の匂いにつつまれ、饅頭店の白い湯気が異世界を演出する。

当温泉の硫黄含有量は全国第二位(二位は万座温泉)。美肌をはじめ肩こりや神経痛など様々な効能が看板に記されている。しかし、蛇口など鉄はすぐに黒く錆びてしまうので旅館のかたは大変だと思おう。

当温泉の歴史はそこまで古くない。かつては住む人もほとんどない雑木林の丘だったが、一九一五年、石油のために掘削したところから温泉が湧いたのがはじまりだという。そう、ちょうど百年なのである。

開湯百年の記念すべき年にオープンしたのが「プレミアムSAKE蔵」と「手湯の杜」。「蔵」は五百円でおちよこ三杯試飲可能(九月からは購入できる予定)。県内九二の酒蔵から、グレードの高い銘柄だけを集めたという。「手湯の杜」では、源泉が蛇口からそろそろと流れており、小さな浴槽にお湯が湛えられている。そして、飲泉用としてカップが置いてある。手を入れると熱くてすぐ引こめ



「プレミアムSAKE蔵」  
一同温泉の若手経営者らが出資して立ち上げた。



「手湯の杜」  
一奥に「月岡温泉発祥の石碑」がある。

てしまおうし、飲むとびっくりするくらい美味しくない。そのはず、脇には「自称・日本一まずい温泉」とあった。しばし盛り上がったのち、宿にもどった。

月岡温泉の色は、エメラルドグリーン。各旅館おそろいの開湯百年の幟が、うつくしい緑色をして客をむかえていた。(菅真理子)

住／新潟県新発田市月岡温泉

前回のアンケート

Q:夏といえば山?海?  
紙幅の関係上、  
すべてのお答えを  
掲載できませんことを  
お詫び申し上げます。



☆山

・昔は海、今は山の温泉。

五十嵐睦博(新潟県)

・若い頃は故郷が松本なので北アルプスの山々へ。  
星輝子(東京都)

・子ども達が小学生の時家族五人よく志賀高原で山へ登ったりした。  
関原幸子(東京都)

・老いが山への懐旧の念をより強くしつつあります。  
有坂馨園(福島県)

・十数年前御巢鷹山へ登り五百二名の犠牲者にお線香を上げて来た。  
石原岳(群馬県)

・登りはつらいが頂上の達成感。  
星野三興(新潟県)

・北の山、トムラウシを思い描きと。  
小島岳青(新潟県)

・高山の清しい空気は何物にも替え難い。  
植松與悦(山形県)

・南アルプス、北アルプス、中央アルプス、お花畑も非常にきれいです。  
大西誠一(岐阜県)

・高齢者の登山は最近評判悪いですが達成感がたまたまなく歩いていきます。  
音喜多千津子(埼玉県)

・早朝の朝もやと朝露の輝くばかりの生命をぜひご覧ください。  
藤井碩子(山口県)

・四国八十八ヶ所の遍路でも山歩きをした。  
居原田連星(大阪府)

・森林浴、滝での深呼吸。  
吉田加代子(新潟県)

・中禅寺湖から日光の湯元あたりまでのドライブはよい。  
原崇雄(埼玉県)

・奥山の溪流の原点を目差しての溪流釣りです。  
井上静夫(栃木県)

・訪れて眺めるだけなら断然「山!」一つとして同じでない千変万化の三次元世界です。  
木村誠一(神奈川県)

・若い時から低山登山に励みました。  
湯浅芳郎(岡山県)

・想像の山を歩き回りたいです。  
篠原三郎(静岡県)

・七十才を過ぎた今ほもっぱら下から眺めています。  
坂山陽康(滋賀県)

・朝晩の高原の緑濃き涼風と夜は温泉に浸かること。  
西條公雄(埼玉県)

・富士山の「山開き」に毎回参加。宝永火口まで登ります。  
佐野和彦(静岡県)

・息子と娘の家族が富士山に登りに来るとの事。  
渡邊美枝子(山梨県)

・山頂上で飲むビールは格別。  
諸橋文男(新潟県)

・学生時代にのぼった白鳥山の大雪山、山頂近くで見た雷鳥の姿に感動しました。  
山田富朗(埼玉県)

・「ヤッホー!」の一言がたまらない。  
寺内侖(埼玉県)

・北方の海は冷たい。それ故に山か。  
早坂絃司(北海道)

・雲海のすばらしさは最高です。  
岡本恵(茨城県)

・若い頃は尾瀬、白馬、上高地とたのしんだものです。  
栗原黎(群馬県)

・百名山を生きている内に。  
白岩賢次(福島県)

・上高地のさわやかな風が忘れられません。  
中嶋秀次郎(埼玉県)

・上高地から眺める穂高は最高です。  
後藤美佐子(長崎県)

・高い山ではなく深い山が好き。  
寒川靖子(香川県)

・立山に登り上着の準備をしなくてはよく寒かった思い出があります。  
大岩歌子(岡山県)

・七月に西穂高岳と八月に奈良の稲村岳へ登ります。  
小山恵美子(大阪府)

・風景画や写真も「山」のほうがたくさん持っている。  
齊藤安弘(神奈川県)

・生い茂った木々の間の風の心地良さ。  
川嶋法子(東京都)

・心臓も「待た」をかけ、山はほれなくなりましたが…。  
奥那於子(大阪府)

・山へ行く深緑の葉から出る酸素を深呼吸して体すっきり。  
大久保アヤ子(東京都)

・緑々した中のマイナスイオン。都会に住む者のありがたい「馳走」です。  
後藤すえひろ(福岡県)



・平地より涼しいのが魅力です。  
出井静枝(三重県)

・一昨年富士山に登りました。無事に山頂までたどりつきました。きっと富士山が導いて下さったのだと思います。  
峯田まり子(奈良県)

・里山の移り行く景が大好き。  
池本勇(奈良県)

・青葉が目にしみる森林浴がすき。  
中田文子(大阪府)

・森林のある山、とくに甲信の山。  
石尾曠師朗(東京都)

・一人で登った「炭坑節」の香春岳。  
中村康浩(福岡県)

・頂上の感激をもう一度!!  
中林恵子(大阪府)

・山の冷気が好きだ。  
高橋登志子(新潟県)

・何もしてやれなかった親だが家族で登った月山、早池峰山など夏の子供達への贈り物でした。  
伊藤敬子(宮城県)

・山。海なし県に生まれ育った私は小六迄海を見た事ありませんでしたから。  
新井賢(埼玉県)

☆海

・銚子シーズン。頃合いをみて泊り込み朝の海は最高。  
河野静子(埼玉県)

・絶対に海です。憧れですね。  
戸田美佐緒(埼玉県)

・日本海に沈んでいく夕日をながめていると心が落ち着きます。  
若月理依子(新潟県)

・海岸に近いので朝の散歩、すがすがしさ、早朝のつり人達。  
高須孝(愛知県)

# A Q U E S T I O N N A I R E

- ・ストレス発散に海釣りに出かけました。  
橋本世紀男(東京都)
- ・稲毛海岸の潮干狩りが一番の思い出。  
高崎登喜子(東京都)
- ・シュノーケルで海中を楽しんだり：今はその元氣も思い出。  
石井美智子(埼玉県)
- ・子供達との海水浴が思い出されます。  
大場きよし(宮城県)
- ・愛犬と重波に。  
関根千恵(埼玉県)
- ・海の景色を眺め新鮮な魚を食べる。  
田中美智子(埼玉県)
- ・日本海の底の澄んだ海原。  
堅田秀子(東京都)
- ・海辺で育ち夏はいつも真黒でした。名前を呼ばれ振り向くと「ああ、こっちが顔？」と冗談を言われる程でした。  
大内泰子(東京都)
- ・父親が海にもぐり魚を得、家族が近くで焚火をして待つ、なつかしい。  
青木涼子(埼玉県)
- ・金槌ですが夏だけでなく広い海をみていると心が癒されます。  
清水勝子(神奈川県)
- ・海は大いなる母であり故郷です。  
古川正栄(千葉県)
- ・職業も海に関係した所でした。だから断然「海」です。  
藤沢健二(千葉県)
- ・若き頃の逗子海岸「江ノ島エレジー」がなつかしいです。  
野村牟人(東京都)
- ・新潟の海です。若かりし頃四ツ屋町で暮した海景色。  
佐瀬千恵(神奈川県)
- ・毎年九月娘と鎌倉へ行き、海を見たいです。  
紺谷睡花(東京都)
- ・泳ぐのが好きですが、もう海行つて泳ぐ年ではなさそう。  
林克(福島県)

- ・山の子の憧れは海・海水浴 海の大きさ豊かさに包まれる感動。  
阿部至(埼玉県)
- ・海空との境目が右・左と下つてる。(遠目から) 千代田俳徒(東京都)
- ・新潟の長男一家と行き置引に遭い無一文、水着だけの一日にはまいった思い出が残る。青木日出男(群馬県)
- ・広々とした海は眺めているだけでも英気を養ってくれます。  
吉村充治(埼玉県)
- ・沖縄は山らしい山は無い。夏は海はキレイです。  
福地義雄(沖縄県)
- ・大洗へ子供と行ったのが忘れられませんが、夏は帰省イコール海を見に帰るということ。  
一瀬正子(埼玉県)
- ・浜茶屋の床のきしみ、浜風、子供達のはしゃぐ声、波の音：こよなく愛してやみません。  
小林七重(新潟県)
- ・小学六年の時静岡市大浜海岸から三保松原までボートの介添えがつく中、列をなして遠泳。  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- ・昔は歩いて海水浴場に行けた。  
高柳閑雲(愛知県)
- ・息子とキャンプをして釣り水泳等を楽しみ、息子と遠泳をした思い出がある。  
油谷郷史(兵庫県)
- ・海岸線の長い新潟ですから。  
寺井清(新潟県)



- ・海釣りも楽しく釣れた新鮮な魚での夕食は格別です。  
松前邦広(千葉県)
- ・奄美に住んでいた頃、山はハブがいるので海遊びを存分に楽しんだ。  
濱崎祥子(鹿児島県)
- ・青い海を眺めているだけで良し。  
西口東治(大阪府)
- ・海の家での潮の香り、「水イチョ」をいただく幸せを感じる夏。  
布目雅之(東京都)
- ・ダイビングインストラクターの私には勿論シーズン問わず海です。  
有働茂治(熊本県)
- ・海辺の温泉朝の清々しさ最高です。朝食前の散歩かせません。  
田中豊恵(新潟県)
- ・砂浜を歩き、潮風、西瓜、入道雲、俳句の季語に沢山ふれたいです。  
成田節子(山形県)
- ・沖縄の海が好きで海原をみては先へ行ってみたいと夢をふくらませます。  
黒岩正子(埼玉県)
- ・子育ての頃親類の住んでいた伊豆の海へ随分お世話になりました。  
石戸幸子(埼玉県)
- ・海外生活から時々帰国する孫達に湘南平塚の海を存分に体験させたい。  
長野光康(神奈川県)
- ・夏休みのほとんどを海水浴です。こしことが懐かしい。  
針生清(千葉県)
- ・海無し県に生れ夏海は待望的である。  
田野井一夫(栃木県)
- ・海岸に暮しておりますので四季折りの情景が見えます。  
中村和弘(愛知県)
- ・ガラガラした太陽、そして沈む夕陽を砂浜で沈みきるまでじっとみる海が大好きです。  
岩崎令子(大阪府)

- ・湘南の海の明るさ、広さが直に思い浮かぶ。  
鈴木岑夫(千葉県)
  - ・昭和二十年八月始、厚岸の浜で昆布の波を見て驚いた。  
奈倉楽甫(愛知県)
  - ・波の寄せる浜辺で砂遊びしたこと。  
石川郁子(埼玉県)
  - ・子供達が幼い頃を海水浴にもよく行きました。なつかしいですね。  
小野寺裕子(宮城県)
- ☆その他
- ・海・山とも良い。空模様の対比に絶句。  
矢野絹枝(東京都)
  - ・海へも山へも興味津津の好期光齢者です！  
安田翔光(香川県)
  - ・海も山もどちらもよい。温泉に入つてリラックスしたい。  
水落重式(新潟県)
  - ・意外と街もいいですよ。  
白戸麻奈(東京都)
  - ・夏は暑いので家の中が一番良い。  
小野正光(宮城県)
  - ・海・山の間をとつて湖。  
石井登(大阪府)
  - ・房総のへそにすんで10年目、山の水が海へ。今日は海へ明日は里山へと。  
北野耕兵(千葉県)
  - ・定年になったら遠くの孫たちを夫婦で訪ね海や山を歩きたいのは夢となり夫は65才で他界。いま成人した孫たちを嬉しく見守るばかりです。  
岡本邦子(福岡県)



●お客様の『リレーエッセイ』

## 進駐軍キャンプのハウスバンド

山川元旦

(東京都・新宿区)



戦後、唯一の娯楽は、ラジオであった。NHKとWVTRの二局だったが、後の方は、一日中ジャズが流れていた。私は、すぐにハマってしまった。自然に体が動き出す感覚は、初めてであった。やっとな復興した三年目、ジャズ研究会「ホットクラブ」が月一で、上野の「イトウ」で開催した。多くの評論家は、この会の出身者である。この会員の中で、アマチュアバンドを作る企画があり、いソノてルヲ氏が音頭を取ることになった。

私は、中学生の頃、セゴビアの弟子でカルカッシ教則本の阿部保夫氏にギターを習っていた。もともと当時、阿部氏も昼間は税務署に勤めていた。いソノ氏のバンドには、ギターの先輩がいたので、ベースに転向した。

楽業が多忙になり、目指した大学は落ち、すべり止めの大学に入ったが、私の望んだ学校ではなかった。

その頃、知人から声がかかり、進駐軍キャンプのハウスバンドに参加した。

当時、キャンプは林立していたが、楽士が不足していた。楽器は高価だし、教える人もいなかった。特に、ベースの教則本は無く、やっとな外書で見付け、英訳したり、写真を見て手指の動きを研究した。そのためか満足に弾けなかったにもかかわらず、大学教授と同じギヤラをもらい、腕が上がれば、二倍三倍は当り前の世界だっ

た。

それにキャンプでは、今のホテルのバイキングと同じメニューが、沢山食べられた。

なにせ学童疎開から、戦後の何にも無い時代を過ごして来た私は、一度に栄養失調がなおり、以後三十年間ハードな仕事に耐える体になった。米軍も料理に群らがる日本人をニガニガしく思っているが、文句を言ってバンドがいなくなる方が心配——ということは何に見えていた。

送迎バスも、横浜方面は、東京駅の丸の内側、立川方面は新宿駅甲州口に集合していた。新宿など深夜楽器を預かる小屋も出来た。東京駅には、急にバンドがほしいバスが来ても、それを裁くマネジャーやプレイヤーがいたことである。

キャンプの中は、①オファイサー(将校、妻、子供)②NCO(単身赴任の技術者)③EM(兵士)と各クラブがあり、基地内でもエリア別である。シヨは、①一流歌手やレビユー②色気のある踊り③テンポの速いにぎやかなバンド。何せ砲火をくぐった連中なので、すぐに喧嘩が始まる。すぐに楽器を持って控室に逃げる。何が飛んで来るかわからないからである。

それにしても、米政府は気色が良かった。

米兵のレクリエーションの為、78回転のレコード盤を33回転にし、12インチに広げた。音質は悪いが、割れないビニライト盤で「Vディスク」と名付けた。32頁の新曲や有名曲の載った歌手とピアノ用の「ヒット・キット」の本。六人から二十人分のオーケストラのスコア。何人で演奏しても、空白が出来ない不思議な譜面である。

これ等を集めて月一位で、各キャンプに空送する。でも良き時代は短かい。軍縮や兵士の帰還が早まり、一つの時代は終った。

## 滋味しみじみ◎◎◎

酒肴 松前漬け



岡本邦子様(福岡県・北九州市)

老父が酒豪であったせいか、20才の頃から酒も少々、酒肴の博多明太子、うに、塩辛、貝柱の粕漬け、中でも北海道展で試食した数の子松前漬けには魅せられた。40半ば、職場の旅行で同室の友と2人、どれ程呑めるかと意気投合、酒とビールを飲み続けてみた。ところが相手には負けた。眠りに就くや胸を突く嘔吐、一晩中の苦痛に実は酒に弱い自分の限界を知った。それ以来酒は止めたが、酒肴の旨さは捨て難い。86才のいまでも、盆正月に息子達一家と、好物の松前漬けでちびりとやる楽しみは忘れない。ところが昨年秋から長年の腰痛が激痛となり、手術を覚悟した。主治医の検査結果で、糖尿病に加えて腎臓も悪いと、腰の名医へ連絡され、再度の検査で長年飲み続けて来た痛み止め薬の副作用と判明。薬は即日禁止、手術は成功、長年の激痛から解放され夢の様に有難い毎日を送ること9ヶ月。入院以来現在まで、塩分控え目の腎臓食に耐えて来た。先日の検査で数値がいいよ安心だね、と言われた途端、あの数の子松前漬けを思い出し、ほんのほんのちょっぴり、最後のひと口に、押し頂いている。

## 「東京文芸」に投稿しませんか

詩、エッセイ、短編小説、俳句、短歌、川柳など、ご自分の作品を発表したい方はぜひご投稿ください。投稿料は原稿用紙3枚まで2,000円。翌月、作品が掲載された同人誌をお送りします。



【送付先】

〒185-0035 東京都国分寺市西町 4-30-29  
降矢 政治  
TEL・FAX 042-575-5764

## 「ご縁ブック2014」「2015年手帖」のご注文用紙を同封しました!

皆さまに感謝の気持ちをお伝えしたいと2004年より制作している俳句、短歌、川柳の合同作品集「ご縁ブック」。今年も制作いたしますので、ふるってご投稿ください。なお、今回よりご投稿くださった方への1冊無料サービスは終了させていただきます。



また、2015年の手帖は美しい草花の写真を配し、季節を視覚で感じられるひと味違った新しい手帖となっています。完全受注生産ですので、お早めにご注文を!

## ポストカード好評発売中!

毎回ご好評いただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り)500円×各季節。今回は夏バージョンを同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。**

## スタッフの一言

Q.夏といえば山?海? ※ちっちゃい風鈴とともに...

木戸 敦子



春夏秋冬、日本海を見ながら車通勤しているので海は身近な存在。学校も海の側だったので思い出は多々あれど、去年から山にはまり中。途中難儀でも雄大な景色と開放感、いーねー!

古川 久美子



どっちもできれば行きたくはないけれども、なんだか毎年海だとか湖だとかに行くようになったってしまった……。去年なんて、快晴の海付近でごによごによしていたら、数十年ぶり(?)に皮剥けた……。

菅 真理子



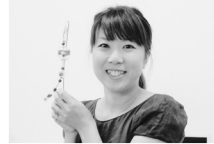
山。目の前いっぱいひろがる緑の田圃、その奥に五頭連峰。真っ青な空、真っ白な雲。新潟の夏だなーと感じる景色です。今年のお盆休みもきっとこの景色が待っている。

山田 千秋



夏は海。空と海の境目を見るのが好きです。月は昇るし陽は沈む〜、とても偉大です。子供達が小さいころはよく海水浴にもいきました。

木伏 美恵



海です!! 太陽の光がキラキラ反射するのを見たり、夜の海の静かなかんじが好きです。山は虫が苦手なので心休まる暇がありません。

上村 真智子



将来、南の島に住みたいと思うほど海が好き。たまに透き通ったブルーの海の夢を見る。沖縄のミーバルビーチにまた行きたいな〜、一週間くらい滞在したいな〜と思っている。

金子 ゆり子



夏といえば川遊び。小学生・中学生のときは山育ちなので川幅3メートルぐらいの浅い綺麗な川を堰き止めてみんなで泳いでいました。海はこの年齢まで2・3回しか泳いでいません。プールは一度もなし。

石山 由希子



阿賀野川と日本海の出合うところに居住。海です。新潟は海岸線が長いので電車から眺めるもよし。キラキラ輝く水で泳いでいました。海はこの年齢まで2・3回しか泳いでいません。※ミューズ登山部員ながら在籍中。

吉田 瞳



海です♪ 昼間は子供と一緒に海水浴、夜は海辺に佇み夕涼み♪ 音楽と共に海でまったりと過ごすのが大好きです! またサマフェス行きたいな〜。



今月満3歳になります。今からお誕生日が楽しみ!!



## どどめ摘み

息子が保育園でどどめ摘みをしてきたのだとか。それをジャムにしてホットケーキに載せ、先生やお友だちみんなで食べるのだといいます。その日お迎えに行った私も一口、おすそわけをいただきました。どどめジャムの甘さ酸っぱさ、つぶつぶの口あたり。素朴でやさしい味がうれしく大人の私の方がはしゃいでしまいました。

そういえば数年前、お兄ちゃんが別の幼稚園に通っていた時は園のすぐ隣に住んでいる先生のお宅の玄関先にどどめの木があり「好きにとって食べていいよ。」と言っていたかったです。歩いて通っていた私たち親子は行きに帰りに少しずついただいて楽しんでいたことを思い出しました。

どどめ、とは桑の実のことです。私が生かす頃の頃はまだ数件の友だちの家で養蚕をしていました。蚕は桑を食べるため桑畑もわがふるさとは豊かでした。お蚕さんが桑の葉を食べる時の何ともいえない音を思い出します。熟した真つ黒な実を口にするのは子どもの初夏のお楽しみ。友だちと桑畑を歩いてどどめを摘み、摘みながら食べました。たくさん摘んだ時はガーゼでしぼってどどめジュースにして飲んだこともありました。

どどめの思い出が私にも息子たちにもそれぞれ少しずつ違った形でできました。子育てをしていると子どもの思

## 里見佳保

前回までご執筆いただいた樋口智子さんが「歌人としても母としてもステキな先輩です」と称する青森在住の里見さん。どどめって…!? 食べ物とその周辺の想い出は、時を経てなお一層、豊かな気持ちをもたらしてくれるようです。

い出の中に自分自身の子どもの時代の思い出を取り戻すことがたびたびあります。特に食べることにしている思い出はいつまでも鮮やかです。その風景と味をたどるとおいしさを与えてくれた人の顔や、一緒に味わい喜びを分かち合った人の声も浮かんできます。思い出の風景はいつもよみがえるわけではないのです。その中によい答えを求めているわけでもないのです。ただ静かにふり返ります。お金や時間のかかった凝った食べものが強い印象を持つとは限りません。おいしい楽しいことばかりではなく、つらい苦い体験と結びついている食べものもあります。

でも昔と同じような風景の中に母となつて立つ時、心の中に小さな自分を描き直した時、またこの先を生きていく力が与えられたような気分になります。こんな記憶が大人になった自分を支え、生かしてくれています。そう思うのです。だから子どもたちとごはんやおやつを作りたい。一緒に食べたい。食べものは体をつくるから。心をつくるから。子どもたちもやさしい思い出を蓄えながらゆつくり大人になつていつてほしい。そう願うのです。

桑の実に嘴染めてうたはんか谷戸のオオルリ  
おおそれみよと  
玉井慶子『蝶形花』

2014. 8. vol.75 (2014年8月10日発行/隔月発行)  
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション  
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29  
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550  
株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395  
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com  
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

## 編集後記

決算期を見直し8月から新年度を迎えた。基本理念である「抱きしめたい本づくり抱きしめたい自分づくり」を実現するための行動指針「仕事を磨き 道具を磨き 腕を磨き 心を磨こう」を新たに見直した。実際の道具はパソコンや印刷機なわけだが、どうもピンとこない、気分が盛り上がらないね…ということで、今年度は「仕事を磨き 女を磨き 腕を磨き 心を磨こう」をモチーフに朝礼で唱和している。女を道具に!?ということではなく、せつかく女という性を受けた者ども、女性としての細やかさ、気配り、思いやり、知性も含めた賢さ(今あるないは別にして!)に磨きをかけていきます。乞うご期待を! (木戸敦子)